壇瓜

四

太政官文庫
和書門
一二四九七 獅
一の一 函
二 架
六五 冊

内閣文庫
和書
一一四九七 號
六五 冊
二一 函
二一 架

内閣文庫
番號 和 11497
冊數 65 (4)
函號 211 302

国立公文書館
National Archives of Japan

彰考館文庫 消印

武王伐商其勢自来既久矣周之於商者不紙臣之義蓋其祖宗不依商命而私迂幽迂邠自以為都此詩翦商之謂欲（横渠説意）其後文王伐崇戡黎者已逼近商都朱先生曰豈有諸侯而敢称兵於天子都乎肴来文王唯是不伐紂耳其他事亦都做了（語類七十九又有文王服事殷之論上）夫文王率西戎征殷之叛国（後漢書）至武王大戎狄犯更強也所謂會牧野諸侯者皆是蠻夷戎狄也（孔安国書註）遂支商屋其社稷是商之忠臣欲將商之乱賊欲然以文武称聖人者何故

消印

丙 一二七九〇

子二三子宜ノ辨ハ之ヲ乙丙九月十六日

○山王神階

大宮元慶四年正一位　二ノ宮壽永二年正一位　聖真子八王子客人十禪師三宮建長年俱五位

諸神記下同ニ

竊要略記　靈應記　扶桑明月集　匡房ノ記等山王の事ヲ記セリ

○下御靈八所ノ内分テ神泉苑ニ祭ル貞觀五年五月廿日壬申

御靈會左中將藤原基經權中將藤原常行等監事ヲ講

師ハ惠運律師ト云云

○天書曰天児屋根命天之忠神也其身如日其心如海其德廣

○五條天神社解曰當社者高野大師之草創云云延文五年五月十日藤因定解狀也

天文九年十二月廿九日荒川又次郎為二父重服一併ノ社ノ

餅調ニ遣スヘキ旨可キ有ニ如何之旨尋來ル之間五旬以後

不レ苦之旨返答シリ云云

是ト部家　私鳴呼神ヲ黷ニ人ニ云ツヲ者也

紫野ノ今宮轄神五條天神ハ同体　斃馬ノ數

明神モ亦同ニ皆疫神ノ説有リ

貞観以後天下ノ諸社一同三階ヲ授ケ奉ラル年月

寛平九年十二月十三日　天慶三年正月六日

兼暦五年二月十日　永治元年七月十日

治兼四年十二月十三日　元暦二年三月四日

私曰尾州熱田古本神名帳曰文治二年三月宣命国中諸神増階ト云々

建仁元年二月十三日　弘長元年二月二十日

建治元年七月二十日

天地権護三十番神　二十八宿三歳星辰星大白災惑ヲ添テ凡三十二神ト云

内侍所三十番神　才二離大神才二大日霊尊等云々神代ノ巻見ヘシ神名ヲ悉記ス是モ亦ト氏カ私説也

王城守護三十番神　青龍朱雀ノ四神ニ宣神申神四方各ノ八神是モ亦三十二神ト卜氏カ私説

吾国守護三十番神　才一天神ト女二地神才二日高ト女二大元才三陰神ト女二陽神一等合ス二神ノ各ノ卜氏カ私説

禁闕守護三十番神　是天台家所謂三十番神也

如法経守護三十番神　朔日伊勢二日石清水三日加茂等云々

法華守護五番神

大比叡　小比叡　聖真子　客人　八王子

私曰三十番神ト者台家ノ私享ニメ而卜部氏延為ノ已

之家事ト一笑呵々

。桓武天皇延暦二年癸亥五月四日八幡託宣曰我名護国灵験威力神通大自在菩薩ト云々

嗚呼觚不ル觚何ヲ大神自謂ル之甚哉浮屠之誣ヒ神欺ク人

。神代ノ四弓座神ノ弓發向弓護持ノ弓治世ノ弓

。桑ノ弓蓬矢桑ハ扶桑国ト云ニ蒙リ蓬ハ蓬萊ト云ニ象ル

始ト氏附會ヲナシ今射家者流口實秘傳トス又大笑

。三宝荒神

神素盞烏尊　速素盞烏尊　武素盞烏尊

卜氏ノ附會如ル此三宝荒神元ト浮屠ノ私享而密家モ亦

有テ説非ト之ヲ見ル谷響集ニ拙キ哉卜氏

金神天ニ五方ノ帝王星内光明才星ノ吉凶ノ二品自筆如ル此ト云々

嗚呼兼俱之愚昧如キ是敢凡卜部秘書皆此類ノ不

足ラ見ル然ニ世人以為ト氏有リト秘奥之古説ヲ累年見ル彼ノ

家所ノ秘書ヲ大槩以テ附會ヲ為ル先當時ノ文盲者尊テ之ヲ

為ル秘可シ憐ム可シ笑ヲ嗚呼

越前中納言秀康卿慶長十二年閏四月八日薨ス

北庄城ニ今ハ号ス福井ト

孝顕院吹毛月珊公

神君有ノ命更ニ使ヲ知恩院前住滿誉僧正改ノ号ヲ

浄光院森岩道慰運正

新建テ一寺ヲ号ス浄光院ト

殉死

法名閑窓道有

土屋左馬ノ助 二万八千石

法名高岳宗心

永見右衛門尉 一万七千石

長勝院松室妙載大姉

秀康卿ノ母堂也元和五年十二月六日薨ス于北庄

天麟院瑞雲全祥大姉

忠輝主ノ母儀ニ万治四年五月八日ニ卒ス

後醍醐院崩御神皇正統紀紹運録常楽記元弘日記裏

書神明鏡皇年代畧記闕城書ノ裏書東寺長者補任櫻雲

記等云延元四年北朝暦應二年八月十六日ト云云歴代皇紀保暦間記李

花集ニ興国二年（北朝暦應三年）八月十六日崩ゝ云ゝ太平記延元三年之
説等互ニ相違戻其四年之説得實以テ周太暦帝十三回
正平六年之説ヲ宜考之而可ゝ
○後醍醐院の皇子皇女の数異説區々なれども紹運録及び
南朝紹運参考太平記のなれる所を是と定メかね
○新葉集に云吾妻の方に向て征東將軍の宣旨なりけれ
道よのゝたゞさりて
しもなりひのかゞやく極みなるかな
中務卿宗良親王

なりひさやゝ海をさりて東方ゝ
はしる武蔵國へ行
くらゝ
行
行
君ゝ為世代
宗良ハ後醍醐院第三ノ宮ゝ他説多ゝ
梅ノ下ニ宗良親王始奉ゝ道政奉ゝ井伊谷ヲ下リ後
後河内国田貫ノ海ゝ

正平八年（北朝文和元年）二月新田

武蔵国大江田武郎大炊助上杉氏郎大炊助親王氏
奉新撰集に征東将軍と記し雲花集には征夷
将軍と書せり 此時ひとりくゝ兵士二百計を従へ
奉りて天野氏郎太炊助関東の討手に向ふ始め
う右野の味方と来新田義貞に属して行頼川新田勢
拒ふ戦せ氏族の中ゝと三河国和泉守
る氏り 遂ひ石濃の陣に地集りる比 宗良の
皇子尹良王いと叡慮ふかのゝ多付

天野氏郎少輔官方に忠義をくゝけ甚子対する
伊濃並合北軍の対とつさ活動て良王をともなひ
まゝ せ三河国中濃まし形氏族連合将軍の陣
附る忠氏あゝ義を正ゝ攻城防戦の勢とゝ
やゝ多しされも寡ハ門方別ゝ軍せ兵
多ゝ義久の孔り 軍を討手の軍と勢
ゝと早ゝ浮人出ゝ 浮ゝ 高の
大蔵ハ力とゝ北條氏の令に従ひ京都の軍

せう角をゝ作るゝや西記に中国より
[illegible]隆五六郎元政抑ハ[illegible]氏ハ[illegible]
[illegible]へ作るゝ凡ハ東国の氏族 徳川家へ仕
奉りてゝ作るゝ[illegible]抑せり人
[illegible]の記[illegible]の心
作る[illegible]冬[illegible]
作る[illegible]書[illegible]作る

天野作景

○通廣 河野七郎越智姓

通信 河野

通久 伊予国高直ノ城主

通秀 七郎左衛門道世知真坊西山ノ善恵上人ノ弟子ニ
後号スル一蓮上人ニ是也相州藤沢清光寺開山ニ
其頃念佛於テ信仰佐久郡伴野ニ自リ歳未別時ニ
始テ正應二年於テ摂州兵庫ノ観音堂ニ寂セリ

通経

通継 備中守 母ハ工藤祐経ノ女

右林 稲葉 久留嶋等ノ先祖也

永享八年平井賀守廣利捕テ世良田万徳丸及ビ桃井
式部大輔満昌ヲ送ル京都ニ及ビ被レ誅セ之間遊行上人田国在京師ニ
依テ請テ其命ヲ為僧乃隨従之ニ云世良田桃井等宇津峯宮方ニ云
梅ヶ津峯宮ハ宗良親王の御事其今子尹良ニ任列ス
自尹良ニ云ヘ其今子良王ヲ奉シテ参列坂東部
正行寺ヲ云ヘ源氏ノ是ヲ付候ハ士卒也正行ハ今
俗ニ云作ヲ云ヘ六十三村の間ニ一書ニ云ヘ二品坂井郷正行寺ヲ云ヘ
宗良等の事南朝紹運圖ニ乗ル云ヘ又南方絶

後僧侶ヲ皇宮ヲ奉ル云ヘ高月氏ヲ云ヘ
云ヘ奉ル云ヘ親の書ヲ得ル云ヘ国ヲ納ム
庚申の事伊経ニ云ヘ但姉見儀軌ヲ庚申の夜姉見
菩薩ヲ命ヲ禄ヲ乎ヲ云ヘ天曹ヲ上ル云ヘ是ヲ
亦道教の説ヲ字屠氏附合セ云ヘ伊姉見ハ北辰の
事ヲ問ヒ云ヘ是ヲ祭ル云ヘ伊姉見ハ是日本後紀ヲ
又云ヘ後世大国氏の紀典ヲ云ヘ今ハ不云ヘ

諸社の神人は其祭れる所の神の子孫紀と奉仕する
正史の記文に吉氏人祀ると定て命せられ後世
新に礼典を設て特に任せ神職も動もすれば
連延の武人神社を以て隠れ後世に神人と
為る者
本列國府尾張大國霊神社といはれる荒廃して一村の小祠
なるまでなれども国神の順位土崎と比べ
其七十貫文の所領を将軍家より寄せ
吉光文書数異寺の所領なるべし
今石崎吉城
久田弥郎
社地寺も附分せられ
孫野記

長門守成田氏神祇とも動しる代神と号せ
安国寺の御末
村観音寺に有
其六世秀富御代興し邦秀を啓し上京して
正六位上に叙し兵庫助に任せられ
邦君滝宮社神門等を再興
古に之なしとせず
祇神を成り
橋社御霊社及宗教社等
重修の事有
今此神主秀勝長邦麻封の代松平に譲
し代りしの八先君敬公の到まで神祇宝典及び
尾張風土記の類を考へ神号を書奉り修行
乙酉四月
近吉郎

凡此社の神主ハ[illegible]中為真[illegible]今橋[illegible]を名
家伊[illegible]と秀富毎方の姓[illegible]本姓[illegible]す此
社の[illegible]次當國八[illegible]真清田神社の神主と中為
の真ハ[illegible]武蔵の住分氏[illegible]今ハ神主職[illegible]万
後世の遠孔を[illegible]者歟

○乙酉九月二十六日の夕雲白雲一條中間の間[illegible]
寅卯辰方へ行中長く[illegible]東西ハ海橋と海[illegible]
雲[illegible]西の方ハ消[illegible]琴星(ハキホシ)ハ幅廣[illegible]四面の方ハ三條(ミスジ)

[illegible]の後ハ[illegible]東鑑抔に[illegible]載
[illegible]ハ陰陽師[illegible]附免[illegible]彗[illegible]
[illegible]今ハ[illegible]異[illegible]
[illegible]と仰[illegible]中天を長く海[illegible]
[illegible]杜[illegible]
[illegible]星[illegible]出現[illegible]不祥[illegible]

○

朝鮮国の熊川(コモカイ)と讃川(ヨリ)ハ韓音(テニヲハ)に力イ
[illegible]不審[illegible]ハ[illegible]倭語のとなへ[illegible]

或書に曰伊勢國三嶋神社延喜式には越智郡大山積
神社大神とゝ此御神は異国を海わたりて来ぬるの
大山祇命は伊豆國三嶋明神也云云
此説本書たゝ味なり大山積神と異国の神
とゝ伊勢記しとゝ紀伊高野宮は宇佐屋
やしゝ是とゝ炎出見尊の御祖とゝ
平岩氏伝曰参州坂崎の郷人五郎右衛門某郷中に大き
なる岩の辛々なるを見て平岩孫兵衛重義
興し甚子健五位下主計頭親吉大身となりて梅雪
天文の比北条氏平岩集人正重吉と勇士有上杉朝成
と組留て若し是時氏秋抑別秋平岩平右衛に
撰五人の称号は伊勢人也
大坪道禅は鞍鐙を作る者也伊勢伊勢守平盛継此人を
作の鞍の元祖元弘年中の人也
御方に八條流とゝ八條倫理亮房重が始る天正
年中の人形

蔡邕獨斷曰亡国之社屋之奄其上使不通天柴其下使不通地自子天地絶也面北向陰示滅亡也云云

按造営廟社有忌面北有實有故漢制亡国之社

漢興以皇子封為王者得茅土其他功臣及郷亭他姓公侯各以其戸数祖入為限不受茅土亦不立社也

按周制封諸侯者必受王者之社土故国以立社故謂之受茅土漢人必不然今講典者以周制今日亦如有此事言之凡獨断二巻古漢之制度文為也宋呂宗孟之是正明程榮再校

源頼光の時雷土四貢りの世よ四天王と称し古書にりや曰

古事談の二に曰の俗称にあり次そのうちの称也

関よりよ古事談四に稲荷次第に曰昔源満仲田代七郎天野

たを系入道の許に行て自念仏して刺まるるのりの東

鑑に曰のりやりりや光

慶長天下五老五奉行

江戸内府公 二百四十万二十石 加賀大納言利家 廿三万石男 越中宰相利長 廿三万石弟 能登侍従利政 廿一万五千石

安芸中納言輝元 百二十五万五千石 會津中納言景勝 九十万九千石

備前中納言秀家　四十七万四千石

是所ゝ謂五大老也

石田治部少輔三成　十九万四千石　浅野弾正少弼長政　三十万七千石　増田右衛門尉長盛　二十万石

長束大蔵大輔正家　五万石　徳善玄以法印　十万石

是所ゝ謂五奉行也

○尾州赤目の横井氏始ハ横江と書　北條相模守平高時末葉也

○松田氏元ハ鎌倉足利家の臣成しゝ為ゝ嫡子者茶

早雲に隨ひ代々小田原に住ス

○上杉顕定永正七年六月二十日越後信濃乃境長森原

にて討ル海老寺殿能峯可諱と号ス

○成田氏ハ武蔵七党の内四郎より別し藤原氏なり綾小路

右大将義孝二男武蔵ち忠基五代の孫式部大輔助ると云子

有嫡子成田二男別当三男奈良四男玉井と称号ス鎌倉将軍

家より以後足利氏の家臣と成東国大乱の中成田下総ノ国

八道宗蓮武州忍ノ城ニ移りしゝ子下総守長泰天正

十八年乃乱ニ城を捨侍千騎の大将成られり北条

敵上杉氏亡しなる後られ[illegible]と北条滅亡の時
秀吉に降参せり
滅田の[illegible]人久宮大和（今久宮と書ハ恐合戦の時討死[illegible]）
大胡弥三郎と同じ討死なり
○北条早雲永正十六年八月十五日卒ス早雲寺殿天英宗瑞と号（早雲ハ如菴号）
○上杉憲房大永五年四月十六日卒ス竜洞院殿道憲大成と号ス
永禄十二年八月信長大軍を率て勝利国を北畠中納言
具教と攻らるるに滅国して帰るるの時

行に講和のなりて信長の二男茶筅丸と具教の子左中
将信意丸とを[illegible]三助具豊と名乗具教の如とそ書
多氏の市丸なり是氏市本丸と号ス具教ハ三瀬の古城
と興し居住是氏大市丸なり信意と称ス大後の
市丸なり天正四年十月具教三瀬の山里よりと
共に拓植瀧川藤方長野等ことと殺ス信意と生捕
出せり具豊と名氏改信雄と[illegible]外舅養父
と元に関氏家[illegible]信長と義昭将軍を追

月岡橋とゝ[illegible]ひ[illegible]うゐひ[illegible]の為よ教[illegible]

平姓横井氏畧系

高時（相模守）―時行―時満（平太郎始称ス北条行氏ト依ヲ母所在隱ル尾州海江村ニ母ハ奥田ノ大宮司）

時任（平五郎移ル住ス愛知郡横江村ニ今書ニ横井ト）―時利（源五郎）

時永（横井源五郎号ニ掃部ト領ス海西郡ノ築ヲ赤月城ヲ）―時延（雅楽助属ス平信長ニ法名能山）

時恭（伊織父住ス赤月村ニ）

時雄（孫十郎子孫在リ紀州）

時朝（孫左門住ス藤ヵ瀬村ニ）

時久（作左門住ス祖父江村ニ）

駿州今川ノ家族閑ロ刑部吹輔（名ハ親永義元ノ伯母ノ娘ヲ聚リ築山殿ヲ産）

伊豫ノ河野氏元越智ノ姓然ルニ十四代河野新太夫親経子ナシ源ノ頼義伊豫守ノ時其次男親清ヲ養子トシ三嶋四郎ト号ト彼系圖ニ見ヘタリ然レハ其子孫越智ノ姓ヲ称スト云ヘモ實ハ源氏也

直満（井伊信濃守）―直親（肥後守）―直政（兵部吹輔）

藤原ノ姓ヲ井伊谷ノ裔孫也

伊勢氏北条ノ先祖

正度 平姓従四位下越前守 李衡 右京亮

盛光 右京進 ― 盛行 右兵衛尉

盛長

恒平

恒平三代 伊勢守俊継 始号二伊勢氏一 裔伊勢備中守

貞藤之子伊勢新九郎長氏北條早雲

云云 或ハ家系不詳云云

一説

鎮守府将軍平維衡之裔伊勢守氏貞之孫駿河守照康

二男新九郎長氏云云

一説

小松資盛之裔伊勢肥前守盛経、末孫伊勢新九郎盛時 後改北条新九郎長氏云云

又或書ハ伊勢新九郎ハ山城国宇治の人と又ハ大和国在原の

産なり尾張国なと伝ふ世説区々

梁武帝天監四年二月十五日水陸大会とゝ

四吏

寄これ異邦施餓鬼祭りの始也

豊臣秀頼幼子国松丸、成田五兵衛助近女也、始常光院禅尼

京極若狭守母 養育之大坂抜落之後乳母藏之於木商之家 材木屋太良兵衛

枚倉氏搜獲之乳母曰是非元君之兒真野豊後守家人坂

部彦次子而吾産之然為国松明白故誅京師時

七歳号漏世院雲山智西大童子 慶長二十年五月二十日其塔在洛誓願寺

乳母及木商被放還 元和記事

台徳公寛永九年正月廿四日薨二月七日諸大名等に遺言

乃金を賜り其数通計五十二万六千四百六十三兩余

平治物語秀衡カ郎等信夫小太夫 作坂小太郎

名元治藤原師綱子称佐藤太信夫庄司継信忠信父也

納殿 平治物語ハ自一本納殿ト書今の俗ニ納殿ハ本字ノ

妙光院快窓祐慶大姉 岡崎三郎信康主御母本多忠政ノ室

寛永三年六月十日逝

大坂の役に天樹院を出し坂崎出羽守貞盛始

倫敦に宇喜多中納言秀家の娘宇春多尼京亮

元和四年五月十日罪なく諸將なきを

開し附き奥人を養ふ美人の貢物切く歩き[illegible]を養ひ[illegible]時
誅せらるもし
神社の祠清きなるを人命[illegible]に星霜の清へ湯あひ
[illegible]時[illegible]の海の中より[illegible]の抗げの
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
山の方ハ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
神社[illegible]

星の社[illegible]石[illegible]
[illegible]石[illegible]南野の氏の長の[illegible]
[illegible]今[illegible]の御神と世[illegible]
[illegible]天の七星[illegible]
世利[illegible]奉[illegible]天文
[illegible]の[illegible]氣凝て金石の形成[illegible]
[illegible]小辰の[illegible]
道[illegible]太乙と祈 秋氏ハ[illegible]大内氏世[illegible]

あるのみやへまうでし是東國山口氏又家に傳まうすと
傳れける北辰の祠孫にあたりけるにや愛智の神の帳
高る所を此社へ傳り移しぬるとせかるものかたりをきゝし
又垣谷の神ましく例に崇む所なる是は此國の物
て垣襪し人とかゝひ伴念機の篇にやとよめり
すゞ傳はりしものに御とよびて名前をかよひかはしを
かの文殊に句をつとめし事をしひて出るさましかりき
をつまれたるにかりしかは社に書付侍りし

北智浮夕におちぬる方へ下り給ひしを御子孫とのとも侍
新て星崎の城の古跡を尋ねけるに南北は一町計東西に
いつゝ斗の余間となりけん岡田長門守孫作侍しとかや
と聞ゆ弘治永禄の頃は今川織田あらそひにしみて陣
ある戦ひとなりにし今は民家となりけるにて

秋葉春花知(コヌ)幾度(ゾ) 栄枯皈(ス)夢(ニ)一(ニス)殤彭(ヲ)
東琴西金今何(カ)在(ル) 旧史空(ク)殘(ル)紙上名

○
神輿山は一時熱田の神輿を此国に移し祈りはじまりし

まつの古屋地にて八月の放生会と世阿の神事を伝へ伝へて

初宮のいとなみや

贈大納言為忠卿 薨 [illegible] 神者の 所領人

[illegible] 今月の左右所 [illegible] 先祖の恩賞より 贈

勲等とゝのふるもの [illegible] 伝へ

於 去年高橋 [illegible] 任 兼綱 [illegible] 伝人 [illegible] 所切 [illegible]

依 吾忠卿 竹内大納言の門葉井集人 [illegible] 月 [illegible] 扶助

[illegible] 抽 [illegible] 勲賞 [illegible] 永 [illegible] 有 [illegible] 者 [illegible] 仍如 件

天文十九年十二月十三日　　治部太輔 [illegible]

天野孫[illegible]

松平次郎三郎殿

宮和陣所の [illegible] 切令免許 [illegible] 訴訟 天野清蔵 [illegible]

[illegible] 陣和に雖 定 [illegible] 於 [illegible] 今以後 者不可及 [illegible]

若 於 遠賀 [illegible] 輩 者 以 世 [illegible] 判 [illegible] 相 [illegible] 令

雖 [illegible] 可 [illegible] 加 下知 者也 仍如 件

弘治弐年

七月　天野信景所反

○清人某氏ノ童七歳於テ十善客館ニ作　宝永二年

異国更無青眼ノ友　空江只見白鴎ノ群

秋風吹ク淚ヲ三千里　酒染西山日暮雲

仝六歳童同所作

遠水微ノ茫々ト飯路迥　滄波万里憶ヲ吾郷ヲ

逢ヲ人ニ欲ス語ント語音別ニ　終日無言ト対ス夕陽ニ

[illegible]

小童因ヒ[illegible]我国ノ[illegible]故国[illegible]ヒ[illegible]ケト交ス詩

あと夢裏分明還ル故郷ニ　双親在テ我ヲ問フ扶桑ヲ

華鯨楼上一声響　撫枕猶疑在ルカ大唐ニ

と作る[illegible]世衣百歳の下涙枚行あり

○池田紀伊守行輝入道勝入長滝の役に[illegible]其首[illegible]

氏を例より拾ひ荒井の新尾侍来たりて市井の事を語
りもて後地に堤を築き迎世井戸掘りてかりの
作りて五年を経る間に池田勝入貢を出し聊の力
拓かるれども忍びて他の初と造り神に祭り元禄十六年
伯侯綱政朝臣（松平侯名）旅行の折り彼所に入れ給ひ
猟場を請ひ給を聞へて荒井の新
作棲の首領を請ひ給ひ
若きにて拓き付きあり花畑にて人かりし
とや語りて花山の遍照寺の清水の
なりしん足を入れ氣を付ける所に
なりしまこの前に流れ来りて
いと深き淵に里の長者拾ひ拾ひ
為に困れるひさしく心さしを匹如
其いたりて拓き磐茅氏が合体と和し
てこうるいたりのもの
拓き茅氏の東に

恩[illegible]を[illegible]

[illegible]の心[illegible]花のまとゝ[illegible]

[illegible]八月の[illegible]

○禁秘抄獅子狗犬

壷井義知曰獅子狗犬謂之簾鎮ト私曰是銅犬ヲ作テ

御簾を鎮ルの謂欤獅子を作テ書鎮[illegible]類し

[illegible]置所[illegible]獅子に[illegible]今神社の篇際

[illegible]と亦簾鎮[illegible]

○尾府城東照宮八元和五年九月十七日迁宮

南光坊天海謚ス慈眼大師ト

奉行成瀬隼人正藤原正成
竹腰山城守藤原正次

大工沃田若狭守藤原吉次

神衣行事宮調進

甲冑弓箭等御奉納御太刀三柄宗近
正恒国行

寛永四年号ス佛院ヲ称ス天長山神宮寺尊珠院ト

天海拠之ヲ云ヘリ

開基 慈眼大師　二代 珎祐權僧正 上葉院自山門日藏院来住

三代 大僧都珎海浄心院　四代 珎舜僧正觀心院

五代 靈渕僧正城南院　六代 智洞大僧都惠恩院

神主

正五位下宮内大輔源幸勝

正四位下民部大輔源恒幸

従五位上刑部大輔源幸和

祭礼元和六年四月十七日始　元　十六日舞楽　十七日神幸

美濃国椎加納大井戸加納東鑑千

栢ちくま加納八幡の市厨子くまの役ち附

稲玉八幡宮市倉石田地知

ひろうされて国に名王政廃まく

後八古名と初人ちくま作ん

相刄藤澤清浄光寺遊行上人四国の時云方郡の朱

章と為し人夫弐馬ちくま心の作ち国に来

徳川郡の市先祖彩成避て時衆ちくま

天下統一ニ執謝のあるべきよし
予謂ふ不然足利家の時御教書成下れ
て四国ニ下ル永正十年正月十五日の御教書ニ曰
廣院御代細川右京大夫持之執達ノ例ニ
為夫駄五十疋ニ送遣セラル永正六
右京太夫義興執達ニ永享八年十二月廿日の御教
書ニ法厚光寺ニ京七條道場金光寺ハ
書ノ如ク寺ノ号年十二月一日ノ編有当代の御

教書ニ今後ハ下ル

義満将軍ヘ大上天皇の号ハ應永十五年廿九日
也薨(後也)畠山基國細川頼元等諫ニ辞セ
ル云々吹毛居士の記ニ居士姓多々良氏渕川元和中人ニ
江談抄中抄ニ二三ヲ以備傳如ク尤
石清水臨時祭始ハ安和(脱字)年三月中ノ午ノ日云々
(私云神社考ノ天慶五年四月廿七日始ル乃抗ハ)
賀茂祭放免着ニ綾羅錦繡眼ヲ為検非違使共人何故ヲ

乎戸部答云非人之故不悖忌也公卿云然者雖致下
放火殺言不可加禁遏欲他罪科者皆加刑
罰於美服條者有指證文歟
仲景梅宮今世諸社祭礼神事の際市井の
凡人美服を着し僧上人賓客服礼を
江談商住郷の辯論も服礼を意外に任
乃論是りなきの
大内門額云南面者弘法大師東面者嵯峨帝北
面者橘逸勢云大極殿額者紀行中将手跡也云
聖廟御忌日音楽可停止彼廟社云
凡忌日乃祭ひ音楽と張ることハ和漢の旧礼歟
玄賓律師弘仁五年律師辞退哥
玄梅門の法花法の純更けりて
又大僧都と辞せ
外国の法華経者の都ハ
又自洛陽赴他国同道未會女人既衣奉之得之

三條殿の流れ汲み[illegible]
梅ヶ枝手水鉢在り此辺[illegible]
[illegible]の事作るなり
延喜之比上達部晴眺不好美麗朱雀院御時或
云卿遣消息ヲ於内裏女房許令奏曰先朝恩賜
御襲年月推移り所々破損ス御下襲一領可被申下
者大略調束帯一具ヲ両三年之間節會公政之庭
着用欲云々

嗚呼昔ハ延臣[illegible]貧れ[illegible]
[illegible]世の侈り僭ふ自賞ス[illegible]
江左大業説云神宝筥鑑纏宝剱之組纏竹籠
之一之由見延喜御日記云々
右流左死私云是ハ當時の附會ス
傳雅三位會坂目暗琵琶習云々
世中ハ[illegible]
[illegible]関の[illegible]

梅ちるよ世ゝと後世時丸の歌とハ消今歟

臺切者為名将歟也張良歟と云件歟累代東宮物也

而後三条院東宮之時二十三年之間入道殿不令献給

給ハ云云其故ハ藤氏服東宮之宝物ナレハ何ッ此ノ東宮

可令得給子云云仍後三条院被仰之様臺切我

持テ無益更ハ不カラスト被御ケリ扨遂御即位

後こゝ被進ケレ云云

梅ちるよ當時藤氏改と事に世ちる是よ初也

後三条帝彼權ともさとさせ給ふ宮と已ハ

方様の東宮かゝ歴代の宝物成私

せ給ふ物ハ也

近衛舎人得名掌云云

尾張安居 童名安居 不改用訓云云

尾張宣時

梅ちるよ是尾氏滅亡昔時とハ彩笔也

今ハ尾氏絶めるゝ世ゝ時行次尾氏ノ国

樂四の初宮の尾氏宿称と称ス 行也云云

是も他姓なり續柄して城の氏人なり
なり饒速日命の御子天香語山命の御末也
なりなりなり（此記父喜家の車駕の屋敷氏田鳴馬場
両家系譜なり代代他姓なり）

白雲似帯圍山腰　青苔如衣負巖背

在中ノ詩云猿樂白樂天ノ詩ヨリ引テ作ル

杣字ハ本朝作リ字ニ山田ノ福吉所ノ作ル也云云

此外猶多シ略シテ是ヲ記ス

京師ノ富人三井家ノ先祖ヤ老病ヨリ臨テ数多ノ子共ニ

宗ノ子ニ曰ク汝ヨリ子ニ遺言ス初テ跡ノ礼ヲ

多ク亡ス是ハ此ノ義ノ歴ノ因縁ナリ

汝等ハ何ノ為ニ和ヲ集テ家ヲ

遺書ヲ作テ子共諸ヘ親族會ヘ彼ノ因ヨ

リ互ニ恨カ起ル書ハ父ノ亡ル悲ム

印章ヲ押テ所ノ名主ヨリ見セ後程ヲ

身ヨリ跡ヨハ種々ノ財宝居宅金銀及ビ

券證拾ヲ多ノ子共為ニ定メ

よ丸作りしかハ爭とるゝ中よりて今に名と
京の人語りあるゝれ[illegible]記録と古今處分に
作ゝ又[illegible]仇敵の中に聞もゝ[illegible]ゝ次
地商家數十萬金の跡むゝ[illegible]
實は惡しゝ[illegible]
細川玄貞ハ三淵伊賀守入道宗薫の子と細川兵部
少輔元有養て子と成長岡兵部大輔藤孝と称
す[illegible]寛永御撰地系圖まい

○元有（刑部少輔 法善寺）―元常（播磨守）―藤孝

如此有又藤孝一男従三位忠興ハ光源院將軍
乃命よりて細川中務太輔經の養子と成
彼家を嗣しゝ系譜よ[illegible]又家代成
掃ゝ三淵氏の祖ハ[illegible]氏將軍の落胤と成
或ハ久松氏ハ菅家苗裔ゝ尾州智多郡阿古居邑の
産久松彈正左衛門道定の孫と今源氏と称是ハ久松
國情ゝ康元年ハ　大神君の異父弟成しゝ故

源氏姓ニ称セラル予曰不然道定の玄孫左京進定
氏男子ナク故ニ一色満貞の二男を以テ養子トス
と継シム一色左馬尉詮定と号ス其子範勝又之ヲ私
氏部大輔と称セリ尉九詮定ハ七世ノ孫ニ当リ定俊子
し然ハ詮定以来ハ實ニ清和源氏ニ属シ而シテ又同東平
氏ハ児玉党ナリテ平氏ニシテ少然リ是と源と
称ス所以いハン者彼祖弟私則景の二男氏行母の
族児玉左馬尉某ノ養子ナルを其系流上野国奥

平郷ニ住セリ故ニ平氏と称シ奥平と氏トセリ
然ハ本姓ハ源氏也又同住行俊理左大義隆の岩城
定隆の男ニ然ハ今ハ住行ハ平氏歟者不然定隆
ハ従三位左中将義宣の子ニ岩城氏の養子
ナリ然ハ義隆本姓平家ニ属ス
是等の類多シ別系図に考ヘシ

藤堂高虎系図 俗ハ宮部禅定坊カ下部ナリシ人ニシテ
高虎国ノ宮部ノ縁者ナリテ其後下ニ属ス

高久 佐々木秀義十代孫六角満綱ノ三男 備中守為三井出羽守棄定養子ナリ

棄高 鈴江備前守

定條 三井出羽守 実ハ三井棄定養子ナリ 定仍 伊賀守

貞虎 源姓称ス藤堂 藤堂作左門菅原虎藤養子 高虎 和泉守左ノ将 始ハ藤堂源四郎 後政ム 守左ノ将ト

棄縫 出羽守

諸国寺分椽目 四分配當 諸郡大領小領 主政 主帳 四分配當

又一國大毅小毅 主帳 校尉 儀師 隊正 是校校尉元備戎具調習スル弓馬ノ等職也

國博士 学生 学校官ノ 醫師 醫生

昔の國政ハ此等の官人ノ吏務ハ國司守ノ分ノ出ス不輸の田ハ多ク出シ後大切ノ者領ノ佐ノ比ノ司ノ事ナリ

庄司 郷司 此読非ル庄司ハ佐貴議院議官大臣家ヨリ補セラレシ下司職

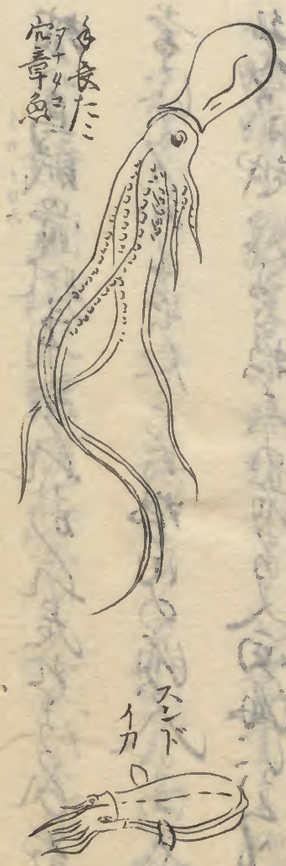
是ハ中世ノ出来ル事ニ相領ノ者ナリ

尾張國愛知郡ノ那古野庄司ハ廣井村常村露橋ト相領ノ者ナリ然ハ庄園郷保ノ号ハ後世ノ事ナリ

文治の始寺護職ト補シ庄園郷保ノ地頭ト置セリ

なほ朱吉のもとに跡をくはへ正統記の六を改めて
角〻頼朝の後を左目の号ありしや鄉目い社家
ばかりにあらず補せらるるや雲田氏田舞家
久明親王卿目職俗のりし古御教書ありて
蝿の字を倭俗人ことに訓して章奚はしし竹ゝ蝿
八蠅蝿〻熟字小蜘蛛の字書よ如り蜘蛛長御とあり
とんくことのるとて誤りなるや戸無人出入則結網當ゝ
と云詩の巡風に蠅蝿在戸とあるやされと海螵

蝿八烏賊骨に半分れ是れまるひなる事ゝ乳たる心
常にんるかもたることハ蝿目の漁人ハあれたるとも
鮫ゝ小越にるい物人の有り又西海に乳たることくいとを
仮たこと又烏賊ハ甲出のおるくたる仮又目
かゝもあるへ人目いが本實に甲首代出へきるる亀ゝ
等ゝ甲ハ内名い鼈の中に成にや仮魚の分に白花
有り是ハたこれ口に例とあり甲の方と是如
とりへ海辺ゝ拾ひ人ハ海辺ゝ拾ひ人ハ海辺ゝ拾ひ人ハ



呼うもく（葡萄）のさけ〳〵又鬱田の浦人すんといふものハ
甲代あに平のこと紀関係さ〳〵出るの異名なり故に八
是八足のかたちにかけ有りの物や一方ハ四つ足ハ二種の生物
数品の形り字の書ハ様〳〵の字成設〳〵皆人ハ一種の円
〳〵ハ代分てる物が代代ハ〳〵方ハ〳〵

○

今世屬醫大師の人参〳〵人参湯の二茎を用〳〵
ハ〳〵ハ芋方伯の書出て伯の人の姑方とする〳〵と無用
とかく唯多きを佳きとす〳〵人参湯ハ〳〵厳
用和の方ハ〳〵漢世方ハ〳〵草個用事成の発の和ハ〳〵
にて沈〳〵あるを語る死生関係ハ〳〵ハ〳〵
〳〵〳〵〳〵〳〵俗用ハ〳〵

○

台記曰摂政者天子所授長者我所譲並有勅宣仰可
取出長者官渡左券朱器臺盤権衡等之由

按氏長者當時並宣下故今関東為源氏長者ハ實
有宣旨但藤氏代譲之乎又按朱器臺盤氏長者家
為饌器者依今世士庶用朱器是後失古礼為僭上者依
保元物語葉室時長作ト又大外記中原師香保元物語
ト上ル状ニ故師梁ノ所ニ鈦平治物語又同ジ
慶長五年の秋今津中納言景勝ハ征伐の為に六万九千
三百餘騎を率し下野国迄発向の為高山右近将
監氏房逆徒を振ひ給ふ処に迄進発なる為
東より起り西に残る太神君の中に入給ふ
関ヶ原の一戦に徳川方の諸侯合戦の初て我と共安堵の
松ハ三歳の秋せしの初て我と共安堵の
て雅楽の役ハ大家の世録もかるやそ天の下に知
白なるとも天運の圖ハ知るべきもの
奇代なるとも半僕僕ハ
松下関翠軒諸家ハ家譜ハ系圖と集まし時分
乃古跡四寺ハ人名ハ同じ東国の寺の位牌

に樽瀧左兵衛尉政落とされ名字住侍同是八幡正成の改
号し湊川に戦死仕り事国に落ち武士共に
に従ひ紀伊に此の者ども一塚の主として今に常住
詞ども多くて八幡士共忠節とるべし
に寄へ旦号楠とさるべし和泉国にの備
て系譜よい書の命さりしかば楠氏
名下人がらり家
尾州津島四家祖父七名字祖瀧平三年十月晦日良王者
奉じて入津嶋

大橋修理亮平定元　岡本左近将監藤原高家
山川民部少輔藤原朝祐　垣川左京亮源信矩
以上四家
堀田尾張守紀正重　平野主水正清原業忠
服部伊賀守平宗純　真野式部大輔平道資
鈴木右京亮穂積重政　河村相模守平秀清
光賀大膳亮菅原為長
以上七名字

内閣文庫

題	五	公示上
題	五	七
題	五	七
題	七	七
題	七	七
題	七	七

雲上方へ歌の点角のうに清水
附合セ又ハ奉書紙を接二ツ折に
〃 又 巻ノ上ノ折ノ表
堪書角〃 長神名帳天神祭式
二首の附とけば〃題ろ〃を氏書〃
題別ケて先ッ題と書〃〃

内閣文庫

内閣文庫

類

歌多けれとて裏ヒラて何そ〃と書〃

楚辞大招ノ篇類ノ神ニ云ヒ

国立公文書館
National Archives of Japan